

工 友 工 友

1971 JUL.

NO. 14

夏期合宿特集号

明治大学SF研究会

合宿です

I S F 研という組織の活動に

ついでこちらと書いてみる

当会がその対象として文学を扱っている以上、クラブとしての全体活動を否定する要素を内包していると言えます。——S F を読み、考え、書く、こうした作業は各個人内でほぼ完結することです。その過定で同人を求めるとすれば、競んで考えるところの線の延長上に、互いに意見をかわし合うといった事ぐらいいしかありません。極論すれば、組織活動は、ほどあり得ないのです。

が、S F 研は儼然と存在し、ファンダムも隆盛を極めています。——歴史的に、S F 好きという少教系の密り合いからの発生が考えられ、ファンジンの発行等からの連帯感による組織の存続、などが考えられます。当会の場合にも、明治大学内にS F 仲間が集まり、語り合える場を作ろう、みたいなあたりから発生しました。みんな読んで読んでことについて話し合い、書いたものをまとめ、本々を作ろう、さうした事情以上のものではなかったはず。そして事情は現在でも似たようなものです。

ホク達はこうした背景を甘受し、サロンのファンタムとして、S F の周辺をうろついていけば、それで満足なものでしょうか。

II 今までの合宿はどうだったのか

ということをふり返ってみる

春の合宿は、その年一年間の活動の方向などを決めることを中心に行るので、その目的と本理由とかの性格的なことははっきりしているわけ。ここは夏の合宿について考えてみることにします。

六九年の八丈島の場合、向はともあれ、その意見込みだけはすべかったようです。S F 研初の長期合宿というわけです。試みられた全ての企画が百貨店のびとく並べられました。例の六月危機からまだそれほどの日も経っていません。S F 研はあくまで研究会的に、という決議(清場一致)だったのたよしの直後でもあったため、そこにはハッキリとS F についてマツメにとり組もうという姿勢が打ち出されていきました。——が、この姿勢も結局意見込みだけに終わってしまったのです。その理由としては、八丈島という南国(！)に、夏のリンだこと、パンがロー住まり下る自炊生活のために食事などの時間をとられず、たこと、意見込みが実は執行部だけのものではなかったのか、という疑問、などが考えられますが、あまりにもアツクなく落してしまっただけです。——其後の活動も結局この線上に終始したようです。そして七〇年を迎えます。

蔵王の場合も根本的には八丈のり意見込みを踏まえていました。八丈の失敗をくり返すまいと、ということと、期間も九月下旬という涼しい時期を選び、場所も山の中の蔵

五二にうんぬんを承知してのことです。見た、合宿

ゆくまて話し合いたいと思っ、ちやうどとほんぞと聞い、
す。過去二回の合宿も、やはりその辺からの思案であった

して、S.F.の周辺をどうしたいか、それで済むのでしようか。

王というこれまた寂しいところにしたのです。更に、合宿委員会がツチリハード・スウェッチャールを組織、これのもとに会員をシメ上げるという専制的方法をとったのです。

こうしたやり方がいいかどうかは問題ですが、執行部の間に、S.F.研はびびるんぞろ、といった意識があったわけだ、俺はともあれビビンせらなは、と、ということだ、俺はと思います。意気込みとしてはある意味で、文以上のものがあつたわけだ。——さういふ状況のもとに、その年の合宿が行われたのですが、一応スウェッチャールはこぼしたよんです。成果としこも、まあこんどころだ、うんと思える程度ではあつたのです。とはいへ、その成果は現象面にのみ限られてゐることで、こういうコトをしてみたら、コレコレのことかできたというだけの話だのひです。ボク達は何を待、俺が残つたかということはハナハタ疑問符のひです。

Ⅲ 合宿とはなんなのだらうという
ことを考えこむことにしよう

合宿という長期にわたつて行動を供にするという時空間にボク達は何を求めたのか、そのさう。サロンのフアンダムとして、会員間の交友関係を築くわけだ、いいのでしようか。——S.F.に本気でとりこんでみると、ハイロイロロフておきも、結局のところ、誰んが考えようという論上での話し合ひ的なところに、全体的活動が落ち着く以上、やはりそれは態度の高い討論をする、といったために求められるのではなからうかと思ひます。つまり、最終的にS.F.について

Ⅲの場合も、根本的に、それ以外の、その意気込みを踏まえて、期間も九月下旬という涼しい時期を選び、場所も山の中の蔵

ゆくまど話し合ひたいと思つち、うんと思ひます。過去二回の合宿も、やはりその辺からの出發であつたのではないでしようか。

Ⅳ 今夏合宿の位置と方向性

といつたことについて

今回の合宿においこも、意識的には前二回の合宿の試みを踏まえたいといえます。すなわち、S.F.へのアプローチであり、合宿で何が出来るか、といつたことひです。

来春、四年生が卒業し、現三年生が(無事)進級して活動の第一線から退くことにより、S.F.研は新時付を迎えるものと考へます。象徴的に言えば、川瀬サンを知つて、連中が身を引くわけだ。——これまどのところ、S.F.研をどうにかくクラフとして成り立たせることが任務であり、S.F.研という団体がナニか出来るか、ということが活動の中心であつたわけだ。ボク達は、ナニかをしたくて、S.F.研を組織したのであるが、さて実際のところ、ナニをしたのか、つかぬが、まず、S.F.研で何が出来るか、というところの追求に、俺のひです。本来は、ナニかした、こゝかあつて、その身長の方法はナニかといつた周辺から、法論が、こゝるわけだ、当会は逆進歩を歩んできたわけだ、ひです。か、こうした試みも、この合宿で、マ、に、俺のための、法論が、こゝとこゝに、戻りたいと思ひます。今夏合宿は、長期活動への踏み切りであり、一つの節点でありま

〔日程〕 昭和46年 8月2日(月) — 8月7日(土)

〔場所〕 佐渡ヶ島 木谷荘; 新潟県佐渡ヶ島両津市水津553 TEL.(水津) 111

〔経費〕 12000円 (交・4000円, 宿・7000円, 水・1000円)

〔行程〕 上野 $\xrightarrow{\text{指}}$ 新潟 $\xrightarrow{\text{指}}^{\text{12・5分}}$ 新潟港 $\xrightarrow{\text{指}}$ 両津 $\xrightarrow{\text{指}}^{\text{12・60分}}$ 水津 $\xrightarrow{\text{指}}^{\text{徒歩0分}}$ 民宿

往路 8:05 $\xrightarrow{\text{指}}$ 12:05 $\xrightarrow{\text{指}}$ 14:00 $\xrightarrow{\text{指}}$ 16:30 $\xrightarrow{\text{指}}$ 17:30 $\xrightarrow{\text{指}}$ 17:30

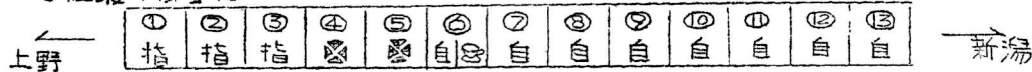
復路 18:51 $\xleftarrow{\text{指}}$ 14:00 $\xleftarrow{\text{指}}$ 13:10 $\xleftarrow{\text{指}}$ 10:10 $\xleftarrow{\text{指}}$ 9:10 $\xleftarrow{\text{指}}$ 9:10

列車編成

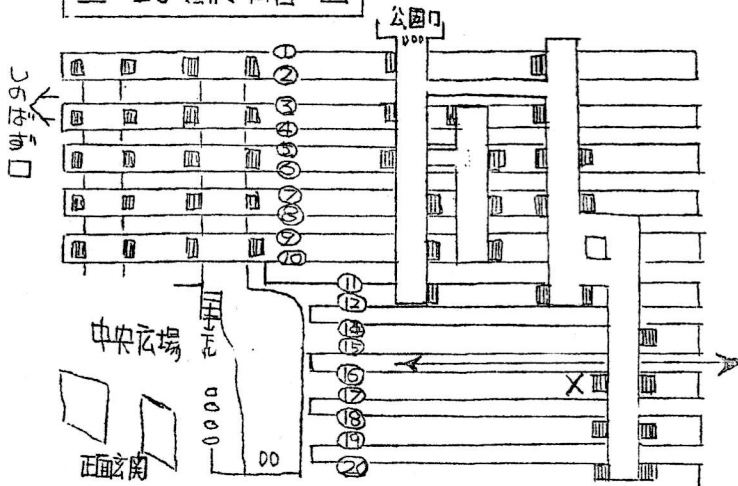
〔トキ1号〕特急



〔佐渡4号〕急行



上野駅略図



8月2日(土)

〔集合〕上野駅

⑬ホーム(國中X印)

A.M. 7:30

〔時刻者〕

上野発 8:48 急行
佐渡51号で来るべし。

⑭ホーム

藤原	角田	深谷	宮腰	李	久野	友広	石川	小沢	竹浪	沼間	山田	竹田	坂井	高野	向後	庄司	小島	坂井	横山	井沢	合宿参加者名簿
延久	裕一	栄	正	護明	健二	匡雄	正興	賢仁	隆平	一美	護	一良	百合子	司	益男	修一郎	義一郎	紀子	正紀	誠一郎	
政経	商	工	工	工	工	工	工	法	農	法	法	法	文	法	工	工	工	文	商	商	
1	1	1	1	1	1	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	

SCHEDULE

	2	3	4	5	6	7
7:00	▶ 集合 ▶ 上野発	起床 朝食				
8:30		討論会 ◦前期反省 ◦後期活動 ◦駿台祭	読書会 ◦ミュタント	SFゼミ ◦SF漫画	原書講読 ◦Feathers from The Wings of an Angel	民宿発 西津港発
12:00	▶ 新潟着 昼食	昼食				
13:00	▶ 新潟港発	水泳教室 ◦3日で泳げるようになる!!				新潟港着 新潟発
16:00	▶ 西津港着 民宿着	SF講座 ◦怪奇SF	SF講座 ◦SF作家 インタビュー	SFクラブ 大会	反省会	
18:00		夕食				
19:00		入浴				打上げ コンパ 上野着 解散
21:00	ミーティング	ショート ショート 批評会	コブキ SF講座	TERRA 読書会		
23:00	就寝					

目録があら、前期を過ぎこの、リカは前期活動の中心を履
すべりとしてスタートしエニス等の指導、現地に居る

7:00

8:30

12:00

13:00

16:00

18:00

19:00

21:00

23:00

企画内容

1 ミミーディング

- 。合宿諸事項の確認。変更がある場合はこの時検討する。
- 。今夏合宿の位置と方向性。
- 。合宿について

2 討論会

議題

- 。前期活動の総括
- 。後期活動企画
- 。学園祭

。TERRAについて

＊ 前期においては、種々の企画が立てられ、一応それに基づいて活動してきたわけのだが、その内容は実に貧困であったといわねばならぬ。

個々の企画についていえば、読書会(夏への扉)、SSS批評会の参加人員の減少、春季ハイキングに至っては不参加者多数のため増減してしまっただけ。もちろんその内容は参加者数によって決定されるものではないが、出席が上る程度では、クラブ活動・企画について検討する必要があると思われる。SSFゼミについても

同様である。前期を過しての、いわば前期活動の中心を成すものとしてスタートしたはずなのだが、現在に至るまで殆んど進展していない。私見を口走れば、企画が決定してスタートしてから、それは無理だのそれだ、ダメなうやめだの何をするのだの、一体どういうつもりなのかと首をかしげたくする発言がやたら耳には入るのほどどうしたわけなんだろうってことなのだ。これまでの散発的企画に慣れたこうした息の長い活動はできなくたってしまっているってことなんだろうか。——は、まじり言って、ボク達は、丹に二回はど棄まっつて、千ヨロン千ヨロンで企画を片づけるという、活動セドキをして、まかりなりのSSF研究会という体裁をつくらってこれればそれでいいのだろうか。それらと関係することだが、集合時間が遅すぎる。遅刻が多すぎ、ひどすぎるということがある。企画内容の貧困も故に、開始時刻が遅れも障わりがないことと幾分救われているが、それでもSSS批評会のように時間がかかる場合など、その被害は大なりものがある。

ボク達はここが再び二年前のあの問いをくり返す必要がある。すなわち、SSF研は研究会的だ、か同好会的だ、かマクである。

SSF研は創立以来その活動の中心をTERRAにありてきた。極論すれば、TERRAをさっちゃんと呼びたい。これに他には何もしなくともいいという風潮があり、TERRAに対する異常な愛着であった。部費の大半がTERRA

Aに注意込まれ、更に刊行時にナニがツかの金をとられ、多のもしかたがないと感じている、というより、何の疑問も持たなかったのだ。か、こうした事情も交わりつつあるようだ。入念にみたら、そこにTERRA Aというファンジンがあった、というだけの意識しか何の会員が増えたのだ。クラブ活動の主流がまもなく萎縮した会員達によって押われ、以上、このままではいけないだろう。クラブ活動の中のTERRA Aの位置付けを検討し、は、まじりませぬ必要があると思われる。

* 後期活動と関連してくることだが、学館闘争の問題がある。学館は現在ロックアウト中なのだか(生田は実力が開放した)これにどう対応するかという点と。そのためにまず、ボク達の学館の位置付けを明確にする必要があるのだが、以下文連の視点を簡単に述べておく。学館は、我々の創造、及びその表現活動の場である。従って、我々はこれを自主管理・運営する権利を有し、現在のロックアウト状態は学校当局の不当な介入であるという点だ。

ボク達とこの学館(部室)とは何か、という問題は当然、サークルとはSF研とは何かという問題に關つてくるはずで、その思惑から討論してみたいと思います。

3. SF講座 — 怪奇SF

講師・坂井信吾子

一、SFと怪奇小説とは、夢と幻想という領域で極めて接近し、怪奇SFなる分野まで作れるほどである。従って、SFと怪奇と両方を好む読者が結構いるわけで、今回講師として迎えた坂井嬢もその一人である。SF及び怪奇モノに造詣深く、突り多し講座となるであろうことは想像に難くはない。

4. ショート・ショート批評会

進行 久野健二
李 讚明

テーマ ヲム

オムをどのやうに捉え、扱つてもよいから、必ず作品中にオムが登場すること。枚数は例によつて10枚以内。

* さらさら恒例になつてきました。あなごみのSS批評会です。オムを扱ったSSとは書主にたいかもしれませんが、カンパツのみならず、力作を期待してまいります。又、突りある酷評を歓迎します。

* 当日、このオムが一冊デキがよかったか、(作品内容に關係なく)なんのハチャハチャの企画もありませんので、そちらの方でも腕をふるって下さい。

います。

5 読書会

メイン・テーマ
『ミュータント』

選定図書

- 『アトムの子ら』 W・ウラス
- 『人間以上』 T・スターツォン
- 『ミュータント』 R・パジエット
- 『スラン』 A・E・V・ヴォクト
- 『さげす』 J・ワインガム
- 『オッド・ジョン』 O・スティーブルドン
- 参考図書
- 『幼年期の終わり』 A・C・クラーク
- 『謎ぐのは誰か』 小松左京

- 各本の中で共通しことり上中下りるテーマは何か
- 人間は、人間以上を必要としこいるか
- 人間が築き上げた文明文化とは何か
- 超能力という便利さを座手にとった作品が多いのはなぜか
- 人間と、人間以下

進行 深谷・宮野

に關係なくして八千ヤ八千ヤの全面もありますので、ごちらの方でも腕をふるって下さい。

人類が、それ自身を批判し、考察するのには、人間以上という存在を仮定したのは、O・スティーブルドンの『オッド・ジョン』が最初である。超能力テーマはスーパーマンモノという公式をうち破り、より危察的なるものへと變遷させる原点となったのだ。この作品の中で、人間はつまりと劣等種として位置付けられ、人間自身のもつ欠陥のせいで、(それを克服することかひまな)という欠陥も含め、(一) 交代を担いきれぬとしていえる。このテーマを更に一般化したものが『オクト』の『スラン』である。

その後、新人類誕生の理論が試みられ、原子爆弾一放射能による突然変異がその主役として登場してくる。『アトムの子ら』はその典型であり、『さげす』など、他にっいにもその例にもれず。

こうして超能力者となったミュータントは、その異常に秀れた能力のため、普通のスーパーマン願望の裏返しである不安と恐怖を呼び起し、普通人と対立・抗争していくことになる。この過程で、人間性とほんとかうまく折り合っているとするモノ、普通人を無視していくもの、あるいは人間以上、が人間を越えることに問題はないとして人間を救済しようとするモノ、と話しはそれぞれの展開をみせてゆく。この中において、人間と、その創り出したものについて思索がくわえられていくのである。

各自上記の課題について、メモ程度でもいいからレポートを書いてくること。

6 SF講座——SF作家

* そもそも当会では、一人一派と云むいふ風潮があり
 ずして、御大川瀬サンのクラーク以来、各自が最高の
 賞賛を惜しまはり作家を一人ずつ持っているのです。
 血迷うと、他のマツラのはSFではなはずと口走っ
 たりするのです。さうした事情に鑑みまして、今回、
 それぞれの傾倒している作家についでイロイロ話っ
 りました場を設けたいのです。各講師いっしょうけん
 めいお話ししますので静聴してやって下さい。

- P・K・ディック——井沢誠一郎
- B・W・オールデイス——小島義一郎
- R・A・ハインライン——向後益男
- C・D・シマック——庄司修一郎
- 福島正実——小沢賢仁
- A・E・V・ラオクト——角田裕一
- ヒロイック・ファンタジー——竹田一良

(注・作家一人を限定するのちキビシイのゴヒロイ
 ックファンタジーとしてまとめました。)

講演内容については別配布のテキストを参照して下さい。
 い。

進行・小沢賢仁

7 SFゼミナール——SF漫画

* 前期で終わらせようつもりだったがナゼかここまでき
 こじまった。これまど何とも進んで来たのでここを改
 めて進べないか以下事項にっ列挙しておく。

- (1) 作家論(そのSF作品から)
 - (2) SF漫画論(現状と未来・可能性)
 - (3) SF漫画BEST
- 以上、(1)・(2)について、各自レポートにまとめてく
 ること。

進行・庄司

8 SFクイズ大会

* やっと出ましたお遊び企画。どんなことをどのよう
 にやるかなど、くわしいことは一切わかっけません
 が、SFの知識を競うようなものになるでしょう。

最優秀賞——文字通り最優秀の成績をおさめた人
 ブービー賞——ゼリから二番目の人
 他盛りの皆さんの賞(賞品ニラズ)を企画中ノ

企画進行・高野

9 TERRA 読書会

* TERRA 5号の批評会です。

当会には、年間最優秀作品に対し贈られる「川瀬賞」という賞があります。これは明大SF研の創設者川瀬直保氏を記念して設置されたもので、長編部門と短編部門があります。昨年度はTERRAが短編部門のため、川瀬賞も不問に付すことになったのですが、今年は復活させる予定です。このことについても多少話し合いたいと思います。

又、TERRAの外部での評判などについて、井沢小島両氏にちらりと話してもらいます。

企画進行・藤原&小島

10 原書講読会

テキスト

Feathers from the Wings of an Angel

by Thomas M. Disch

* 今回は思ひきって長いものを選んでみましたかどうでしょうか。くしけはないで訳して下さい。

又、訳すだけがなく、内容につりこも言及したいと考えております。

企画進行・沼間&井沢

11 水泳教室

* 四方を海にかこまれたこの小さは島國に棲息してはい

ながら泳げないやむという人種がいるのは許されることではない。ましてやSF研に籍をおりておきながら泳げないとは向たる千ヤッ(全然関係ない)に。このような事態を看過するには耐え難く、ここに独断独善独裁的に水泳教室を開催することに決定した。講師にお迎えするのは高校時代水泳部で鳴らし……さながら庄司君(と書くと東海林さあかのマンがみたりなのだ)である。水泳の理論に関しては、ぼくの事を言うが、運動神経がそれに追いつかないため、実力の程はタカ加知れこいるが、他人に教えるとはれば話はまた別である。

三日で泳げる!! 本当です。

泳げない人で参加する意思のある方はぜひまた家で次のコトを練習して下さい。

。洗面器に水を満ちし、顔をつけて中で目をあけられようとする。更にござるだけ長く顔を水中につけていられよう練習する。

。海・プールなどで、全身をのびして力を抜くと水に浮くが、これが榮にできる人は最初の一日で泳げるようになるだろう。

。距離かのびない人も相談にのります。

12 反省会

- * 当然のように反省会を行います。2日のミーティングで確認したことを中心に総括したいと考えます。
- 。合宿はなぜ行われるか
- 。今夏合宿の位置付け。又来年度以降への方向性。
- 。企画について
- 。後期活動の確認

13 打ちあげコンパ

* 合宿もはんとか終わり、例によって例のつとく打上コンパであります。今年の新入生はどれもこれも未成年であるにもかかわらず、どうしたわけかよくノムのです。うかうかしてるとお酒は無くなってしまうのです。のみ助けかりなのでまさか白けることがあるとは思えません。各自心しておいと下さい。合宿の成功・失敗は全このコンパにかかるといって過言ではない。

担当 山田・石川

必需品

- ▽ SF 5 14・7月号
- ▽ SFゼミレポート 「SF漫画」
- ▽ 原書講読テキストとその翻訳原稿 英和辞典
- ▽ SS批評会テキスト
- ▽ 読書会レポート 「ミュータント」
- ▽ TERRA 5号
- ▽ 筆記用具

- 着替え
- 洗面用具
- 水着 (B・サンダルはとあると便利)
- 雨具

- 学生証
- (持っている人は) カッター

* 今年は何を血迷ったか早々と梅雨が明けました。今年の梅雨は長いと思いましたが三日頃には大騒ぎしてかりて

MEMO.

○後期活動内容

○反省・総括

○聯合祭

○TERRA

イスエフ SF

7月号 通巻第14号

昭和46年7月15日発行

編集者 石川正徳

発行 明治大学SF研究会

協力 MSFC幹事会

印刷 生田印刷K.K

製本 生田製本所

価 30円

Printed in Japan © MS.F.C.

* 今年は何を血迷、早く早々と梅雨が明けました、今年の梅雨は長いを長いと、お正月頃から大騒ぎしておりました、早くふむむけました。日本の気象予報の正確さは世界一だそうですが、世界一がこのサマエは他の国はどうなってるんだらう。それでもツメツメツツトが無くはったせいかなと腹もたたず、おまけに今年もやっぱり定期試験は無く、もう実質的には夏休み、心ばかり浮き浮きしてバイトもする気にはなりません。

* 一年半の宛黙を破ってTERRAが刊行されました。やっぱりこうして真新しい表紙をみるとナントナクうれしくなります。永い永い冬でした。

* 今年の合宿はドハード・スケジュールでまとめました。佐賀の祖サン方のサービスクイーンのは夏以外だぞうです。から民宿でツッココヤ、こた方がいいんじゃないかと思えます。

MSFC

MEIJI UNIVERSITY SCIENCE FICTION CLUB